

上 田 市

景 観 計 画

---

上 田 市

# 目 次

序章	景観計画策定の背景と目的	1
第1章	上田市の概況	3
第2章	上田市の景観特性	8
第3章	景観計画の区域	22
3-1	景観計画区域	22
3-2	景観形成重点地区	22
第4章	景観まちづくりの将来像、目標・方針	23
4-1	景観まちづくりの視点	23
4-2	景観まちづくりの将来像	24
4-3	基本目標・基本方針	24
4-4	景観形成方針	28
第5章	行為の制限に関する事項	36
5-1	行為の制限に関する地域区分	36
5-2	行為の届出、事前協議	38
5-3	景観形成基準	40
第6章	景観重要建造物及び景観重要樹木の指定の方針	61
6-1	景観重要建造物の指定の方針	61
6-2	景観重要樹木の指定の方針	62
第7章	景観重要公共施設の整備に関する事項	62
第8章	屋外広告物の表示等の制限に関する事項	63
第9章	景観形成の推進に向けて実施する事項	63
9-1	景観形成に取り組むための体制の充実	63
9-2	景観計画の充実	65
9-3	市民による景観づくりの推進	66
9-4	景観に関する意識啓発の推進	67
9-5	他法令や制度との連携について	67
9-6	公共施設等における景観形成について	68

## 序章 景観計画策定の背景と目的

### (1) 策定の目的

信州上田の景観は、本市が目指す「生活快適都市」、「美しい自然を守り歴史や伝統に学ぶ文化の薫るまち」を実現するための市民共通の大切な資産となっています。地域への愛着と誇りをつちかい、訪れる人々に魅力を提供するには、上田市に住む私たち自身が、景観の価値を見つめ直し、地域の個性を反映した上田らしい景観を守り、育て、生かすことが大切です。

平成18年3月6日に当時の上田市、丸子町、真田町、武石村が合併し、新たに誕生した上田市は、旧4市町村から、美しい自然と、歴史と文化が生きる魅力ある景観を受け継ぎました。各地域の個性豊かな景観を守り育てるとともに、上田市の特色を生かした新たな景観を創出することによって、美しく魅力あふれるまちづくりをし、これを次代の市民に引き継いでいくため、本市における景観上の特性や課題等を踏まえながら、景観法(平成16年6月18日法律第110号。)に基づく「上田市景観計画」を策定するものです。

### (2) 策定の背景

合併前の旧上田市では、平成3年に「上田市都市景観形成基本計画」を策定し、平成4年から「都市景観賞」の表彰を行い、平成7年には上田市景観条例を制定するなど、独自の景観行政に取り組んできました。

また、旧丸子町においても、平成15年に「丸子町景観形成基本計画」を策定し、景観形成を推進するための方針を定めました。

旧真田町、旧武石村においても、花や緑を増やす運動など、地域の特性を踏まえた景観形成を実践してきました。

この間、市街地では、上田駅お城口再開発事業や街路整備事業などにより、上田地域の玄関口、交流の拠点としての装いが整い、また、歴史的まちなみを生かしたまちづくりや、沿道や河川の美化活動など、各地域で個性を生かした景観形成の取り組みが進められてきました。

一方、近年では、城下町や街道沿いの伝統的なまちなみ、蚕都ゆかりの建物が次第に失われ、地域の歴史的な記憶が薄れつつあり、また、市街地での高層建築物の建設や、郊外の農地で進む宅地化など、これまで地域で継承されてきた固有の景観に変化が生じつつあります。

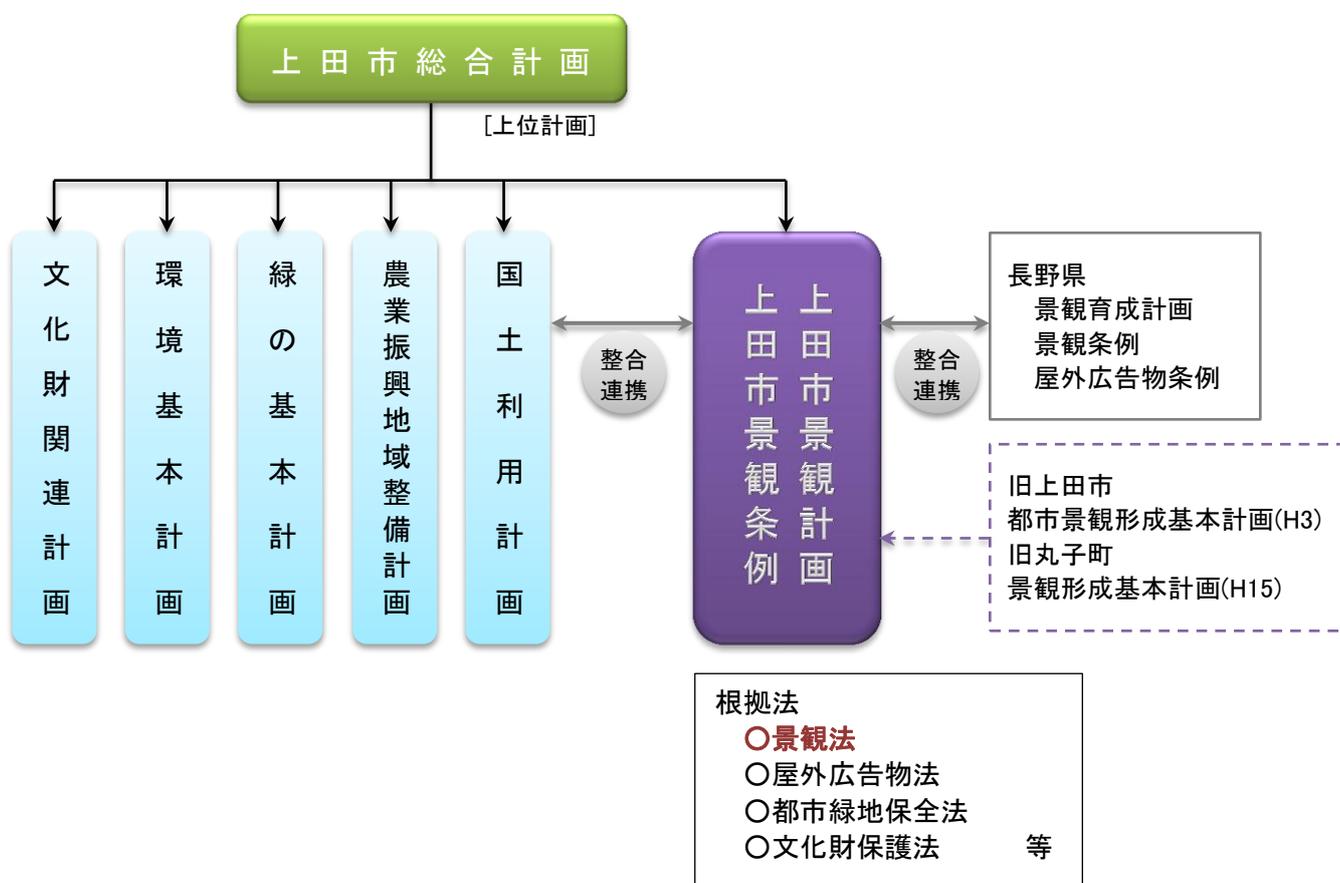
国では、平成15年7月に「美しい国づくり政策大綱」が公表され、平成16年6月には「景観法」をはじめとした、いわゆる「景観緑三法」が公布されました。これらを活用することにより、地方自治体がそれぞれの地域の特性に応じた景観施策を積極的に行えるようになるなど、景観まちづくりのための制度が整えられてきています。

こうした状況を踏まえ、本市は、景観法に定められた景観計画を策定することにより、各地域の景観的課題に対処するとともに、新市として一体的な景観施策を講じ、将来にわたって地域の個性を生かした良好な景観形成を促進することをめざします。

### (3) 景観計画の位置づけ

- ・上田市景観計画は、景観法第8条の規定による景観計画として定めるものです。また、景観法のほか、国の関連法制度の位置づけに基づく計画として策定します。
- ・長野県において策定している「景観育成計画」との整合も図りながら策定します。
- ・上田市の計画等においては、「上田市総合計画」を上位計画とし、「国土利用計画」等の関連計画と整合を図りながら策定します。

#### 上田市景観計画の位置づけ



## 第1章 上田市の概況

### (1) 位置・地勢

#### ア 位置

日本のほぼ中央に位置している上田市は、北は長野市、千曲市、須坂市、坂城町、筑北村、西は松本市、青木村、東は嬭恋村（群馬県）、東御市、南は長和町、立科町と接しています。

奈良時代から、京都と東北地方を結ぶ「東山道」の拠点として栄えた交通の要衝であり、現在はJR北陸新幹線、しなの鉄道、上田電鉄別所線が上田駅で接続し、上信越自動車道（上田菅平インターチェンジ）を有しています。

東京から約 190 km、県庁所在地の長野市からは約 40 km の位置にあります。

市域は、東西約 31 km、南北約 37 km の広がりを持ち、面積は 552 km<sup>2</sup>、市役所本庁の位置は、東経 138 度 15 分、北緯 36 度 24 分、海拔 456m です。



図1 上田市の位置

#### イ 地勢



長野県の東部に位置し、北は上信越高原国立公園の一部をなす菅平高原、南は八ヶ岳中信高原国立公園の一部をなす美ヶ原高原などの 2,000m 級の山々に囲まれています。

佐久盆地から流れ込む千曲川（新潟県からは「信濃川」）が市の中央部を東西に流れ、これに周囲の山々を源流とする依田川、神川、浦野川等が合流し、長野盆地へと流れていきます。標高 400m から 800m の河川沿いに広がる平坦地や丘陵地帯に市街地や集落が形成されています。

### (2) 土地利用

土地利用の状況を土地利用区別に見ると、行政区域面積 55,200ha のうち山林 72.1%、農地 11.9% などとなっており、水面等を含めた自然的土地利用は 87.5% です。残りの 12.5% は宅地等の都市的土地利用となっています。

都市計画区域における土地利用の状況は、区域面積 23,294ha の 77.4%が自然的土地利用で、残りの 22.6%が都市的土地利用となっています。自然的土地利用の内訳は山林 51.9%、農地 19.4%などとなっており、行政区域と同じく山林の占める割合が多くなっています。

用途地域指定区域においては、面積 1,602.5ha のうち自然的土地利用は 16.0%、都市的土地利用は 84.0%であり、そのうち住宅用地が 38.7%で最も多く、商業用地の 8.6%、工業用地の 6.0%を併せた宅地全体では 53.3%を占めています。また、可住地面積は区域面積の 70.0%にあたる 1,122.4ha です。

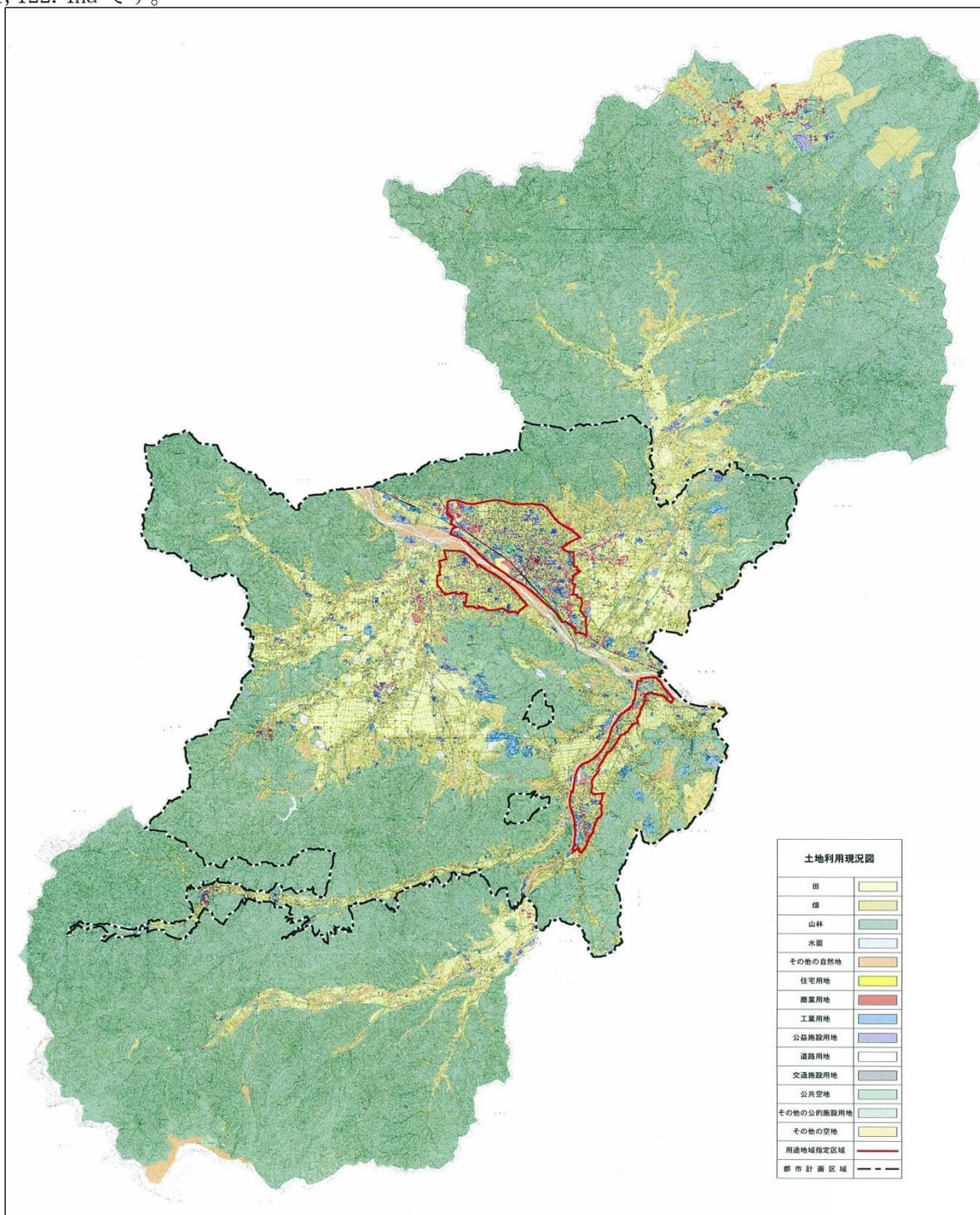


図2 土地利用現況図（資料：平成 23 年度上田市都市計画基礎調査）

### (3) 交通網

交通網は、北陸新幹線（1 駅）、しなの鉄道（4 駅）、上田電鉄別所線（15 駅）の鉄道、上信越自動車道の高速道路、および国道、県道、主要地方道が整備され、環状道路の計画、整備が推進されています。

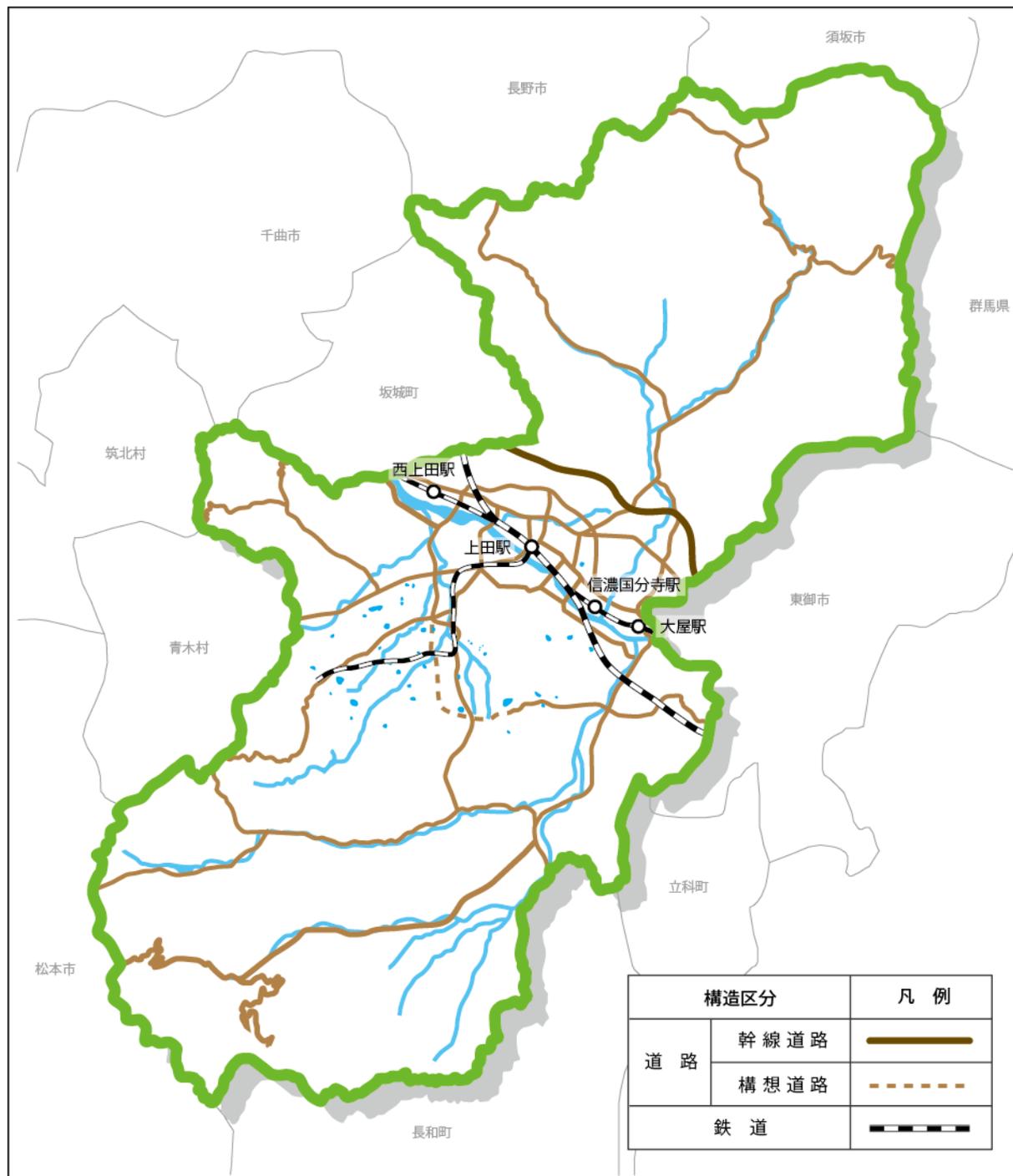


図3 市内交通網図

## (4) 歴史文化

上田地域の歴史は古く、大和時代には国造（くにのみやつこ＝知事）がこの地に派遣され、科野国（しなののくに＝信濃国の古名）の政治・文化の中心地であったと考えられます。

奈良時代には、国分寺、国分尼寺が建立され、信濃国で最初の国府が置かれた地ではないかと考えられています。

鎌倉時代に入ると、幕府の信濃守護職、北条氏が塩田に居を構え、三代 60 年にわたり鎌倉の仏教文化が花開きました。この塩田平は『信州の鎌倉』といわれ、安楽寺の日本で唯一の八角三重塔（国宝）をはじめ、多くの歴史的建造物、史跡が残されています。



安楽寺



上田城跡

戦国時代には、真田氏が上田城を築城し、約 40 年間上田の地を治めました。その後は、仙石氏（約 84 年間）、松平氏（約 160 年間）と城主が代わっています。この間に城下町が形成され、政治文化の中心、物資の集散地として栄えました。

江戸時代には養蚕業が発達し、上田紬は日本の三大紬とうたわれるほどの発展をみせ、さらに明治から大正時代にかけては全国有数の蚕種（さんしゅ）の生産地となり、全国の蚕糸業

を支える「蚕都」として繁栄しました。丸子地域は、明治中期から大正期にかけて製糸業が盛んで、岡谷地域に次いで日本第 2 位の出荷額を誇り、「生糸の町丸子」として海外にまでその名を広めました。

上田市の文化財の指定状況（建造物・石造物・史跡・天然記念物・名勝）は国指定では国宝 1 件、重要文化財 5 件、登録有形文化財 7 件、史跡 3 件、天然記念物 3 件、県指定では県宝 10 件、史跡 4 件、天然記念物 3 件となっています。市指定では史跡 45 件、天然記念物 31 件、名勝 7 件、有形文化財（建造物・石造物）36 件となっています。そのほかに古墳等の包蔵地が市内に数多く分布しています。

■表 1 文化財の指定状況

	国指定	県指定	市指定
国 宝	1	—	—
重要文化財	5	—	—
登録有形文化	7	—	—
県 宝	—	10	—
史 跡	3	4	45
天然記念物	3	3	31
名 勝	0	0	7
有形文化財	—	—	36
合 計	19	17	119

出典：『平成 23 年度上田市の教育』上田市教育委員会発行

## (5) 自然環境

本市は、北に上信越高原国立公園の一部をなす菅平高原、南には八ヶ岳中信高原国定公園の一部をなす美ヶ原高原という二つの自然公園が位置し、また、根子岳や日本百名山に数えられている四阿山、独鈷山や太郎山など周囲を個性的な山々に囲まれています。

市の中央部には千曲川が東西に流れ、依田川、神川、浦野川等の支流が合流しています。また、支流沿いには巢栗溪谷、角間溪谷、唐沢の滝などの景勝地が多く存在します。千曲川や依田川、神川の流域沿いには河岸段丘が形成され、段丘に沿って緑地帯が見られます。

塩田平や依田地域には広々とした水田地帯が広がり、また、山間地には人々の手によって棚田が保全されています。塩田平を中心に多くのため池が見られるのも特徴です。

本市は、豊かな緑と清らかな水の流れに囲まれた美しい自然景観に恵まれています。

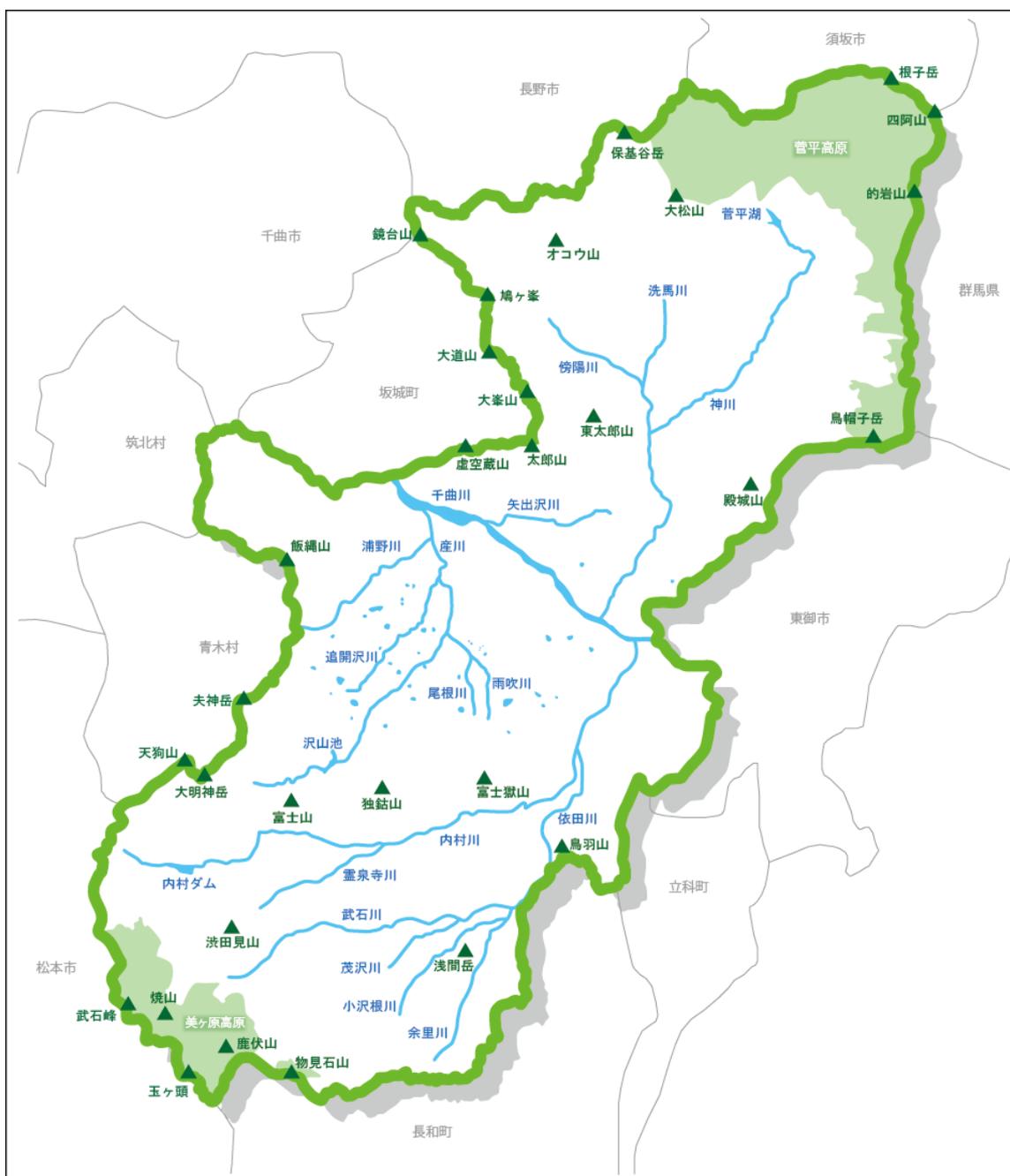


図4 河川・山分布図

## 第2章 上田市の景観特性

本市は、上田地域、丸子地域の中心部にそれぞれ市街地が形成され、その周囲を田園地帯や緑豊かな山々を取り囲んでいます。また、千曲川をはじめとする河川や、鉄道、道路、段丘の緑、旧街道などが景観の軸線を構成し、上田城などの史跡、温泉地、伝統的集落、大規模な公園・緑地などが地域の景観的拠点を形作っています。

### (1) 市街地の景観

#### ●多様な市街地景観

- ・歴史的文化的資源や都市機能の集積、商業地等の様々な要素で構成されている上田中央地域、主に住宅地からなる上田城南地域、国道等の沿道に商店街や市街地が形成されている丸子地域の市街地は、それぞれ独自の景観を形成しています。



- ・上田駅温泉口・お城口広場一帯では、再開発事業による新しいまちなみが形成されています。中心商店街一帯では電線地中化により快適な歩行者空間が整備されています。一方、近年では高層建築物が建築され、まちなみに変化が生じています。



#### ●歴史と文化を今に伝える建造物

- ・中心部は上田城の城下町と旧北国街道の宿場町としての面影を残し、古くからのまちなみや河川・用水路、細い路地などが古い歴史をもつ都市としての趣を伝えています。
- ・上田城跡をはじめ、城下町ゆかりの寺社等の歴史的建造物が数多く残されています。



- ・蚕都として栄えた明治から昭和初期にかけて建てられた擬洋風のモダンな木造建築物等が市街地に点在しています。
- ・丸子地域の市街地には蚕糸業が栄えた時代の建造物が残っています。
- ・市街地のまちなみや歴史的資源を活用した映画のロケなどが数多く行われています。

## (2) 田園地帯の景観

### ●まとめて存在する良好な田園空間

- ・塩田平や依田地域などのまとまった規模の田園地帯では、視界を遮るものがなく、背景となる山並みとともに、良好な田園空間が形成されています。また、集落地が、古くからの道筋や河川沿い、山麓などに点在しています。
- ・稲倉、深山には棚田が見られ、稲倉では地域住民による保全活動が行われ「日本の棚田百選」に認定されています。
- ・神川水系などの水田地帯では石垣で築かれた畦が見られます。



依田地域の水田



ため池

### ●豊かな水辺、ため池

- ・神川、依田川、武石川、浦野川などの河川や農業用水路などの水辺が、うるおいと安らぎをもたらす景観要素となっています。
- ・塩田平を中心としてかんがい用のため池が見られます。

### ●蚕室造りの民家

- ・古くからの集落地では、蚕室造りなどの伝統的な民家が数多く残り、土蔵、石垣、用水路、生垣、庭木などが上田市の特徴を表す風格のある歴史的景観を形成しています。



蚕室造りの民家

### ●新しい住宅地や商業地

- ・市街地周辺部や幹線道路沿いの農地を中心として、新しい住宅地が広がりつつあります。また、農地の中に大規模な商業施設や宅地分譲などによる新興住宅街がみられ、古くからの集落地とは違った田園景観を形成しています。



陣場地区のワイン用ぶどう畑

### ●果樹園、畑作地

- ・山麓の扇状地など水の得にくい場所は、果樹園や畑作地がまとまりをもって広がっています。かつてはこれらの場所の多くは桑畑として利用されていました。太郎山山麓に広がるりんご園や、丸子陣場地区のぶどう園などは、丘陵地に良好な景観を形成しています。また、太郎山山麓の果樹園では、上田市街地に隣接する立地のため宅地化が進み、果樹園と住宅地が混在してきています。

## ●丘陵地



・信州国際音楽村や陣場地区などの丘陵地では、雄大な浅間山・蓼科山の眺望が広がっています。

## ●「信州の鎌倉」

・「信州の鎌倉」と称される塩田平は、生島足島神社、前山寺や中禅寺、安楽寺、常楽寺等の寺社群があり、数多くの貴重な歴史的資源を今日に伝えています。また、これらの文化的遺産と田園地帯やため池、山並みなどが一体となった風景は「美しい日本の歴史的風土 準100選」に選定されています。



## (3) 山地の景観

### ●緑豊かで個性的な山並み

・本市のイメージを形作る個性的な山並みが、市域の周囲を取り囲んでいます。

・上田市街地の正面に見える太郎山、塩田平と鹿教湯温泉郷の内村川沿いを分け隔てる独鉾山、別所温泉を抱く夫神岳、女神岳。なだらかな稜線を形成する小牧山、烏帽子岳。菅平高原や美ヶ原高原へ続く山並みなど、それぞれが個性的な姿で、本市を印象づけています。



・市街地郊外の高台や道路沿いからは、遠く北アルプスや蓼科山、浅間山への眺望が得られます。



## (4) 自然公園の景観

### ●雄大な眺望が広がる高原

- ・八ヶ岳中信高原国定公園内の美ヶ原高原では、雄大な北アルプスをはじめ 360 度のパノラマが開けています。また、台上には放牧が行われる草原や美術館などがあり、個性的な景観を形成しています。



- ・上信越高原国立公園内の菅平高原は、スイスの牧場地帯「ダボス」に似ていることから、「日本のダボス」と呼ばれています。菅平湿原や周囲の畑作地帯、別荘地やスキー場などのスポーツ施設があり、根子岳、四阿山の二つの峰への眺望と一体となって雄大な景観を形成しています。



## (5) 河川の景観

### ●清らかな川の流れ

- ・市の中心部を本流となる千曲川が東西に流れています。河川敷には市民緑地やグラウンド、散策路、親水護岸等が整備され、市民の憩いの場となっています。また、河川沿いでは自然の河川林や高水敷の樹木が緑地を形成しています。



- ・千曲川の支流である依田川、内村川、武石川、神川、洗馬川、浦野川、産川などの河川が山地の谷沿いから田園地帯の中を流れ、豊かな水辺空間を形成しています。

- ・依田川沿いは、桜堤防等の散策路や公園が整備され、市民が親しめる水辺空間となっています。



依田川の緑の道(桜堤防)



矢出沢川

- ・上田市街地には、矢出沢川と蛭沢川、枅網用水が流れ、川沿いの緑と城下町、蚕都の面影が一体となり、街にうるおいと安らぎをもたらしています。

### ●ビューポイントとなる橋

- ・千曲川は、上流から大屋橋、大石橋、小牧橋、常田新橋、上田電鉄千曲川橋梁、上田橋、古舟橋、上田大橋があり、それぞれ川の流れと背景の山々が調和した良好な眺望点（ビューポイント）となっています。



上田大橋



上田電鉄千曲川橋梁

- ・依田川の馬坂橋、浦野川の醤油久保橋は、木橋であり、ビューポイントとしてだけでなく、河川と一体となった景観として地域の人に親しまれています。



馬坂橋



りんどう橋

- ・かつて千曲川に架けられていた旧大石橋は、上田丸子電鉄の鉄橋であり、後に道路に転用され、現在は移設先の内村川で「りんどう橋」として活用されています。ビューポイントとしてだけでなく、河川に関連する景観上重要な産業遺産となっています。

## (6) 段丘の景観

### ●特徴的な河岸段丘の緑地

- 千曲川や神川、依田川などの流域には、河岸段丘が形成され、鉄道や幹線道路からも見ることができる特徴的な地形をなしており、段丘沿いに形成された緑地がうるおいや安らぎを与えてくれます。

- 染屋台グリーンベルト(染屋台段丘)は、国道18号に沿って市街地に貴重な緑地を提供しています。



- 上田城跡ヶ淵など、上田市街地のしなの鉄道北側に沿って段丘が見られ、常田では製糸業が盛んだった時代の面影を残す繭倉とケヤキの緑が一体となった魅力的な景観を形成しています。



- 塩川地区狐塚の段丘林の中では季節になると水路をホテルが舞う姿を見ることができます。
- 神川沿岸では、田園地帯の中を一直線に段丘林がのびる印象的な景観が形成されています。

- 依田川沿いの段丘は、主として国道152号に沿った住宅地の背後にのびています。



## (7) 街道の景観

### ●宿場町、城下町として栄えた面影をとどめる旧道

・旧北国街道は、江戸時代から明治の鉄道開通までの長い間、江戸と善光寺、北陸を結ぶ交通路として、また、参勤交代の道、佐渡の砂金を運ぶ道としても重要な役割を果たしてきました。街道沿いには塩尻、秋和、上田城下町、常田、踏入、岩下へと街道の面影を残す家並みが各所に残されています。

・上田城の城下町の一角であった柳町では、地域住民による継続的な取り組みによって、まちなみの保全、修景が進められ、宿場町のおもむきが感じられるまちなみが形成されています。また、観光や撮影で多くの人を訪れるようになっています。



・塩尻地区では蚕種製造を行った家並みが、桑畑跡などの蚕業関連遺産とともに数多く残され、歴史と文化を伝える集落地が形成されています。

・旧保福寺街道(旧松本街道)沿いの坂下、新町の通りには街道の面影が色濃く残されています。



・旧上州街道沿いの上房山、川原柳付近にも往時の面影をうかがわせる歴史的建物が残されています。

・旧保福寺街道沿いの浦野宿には古くからの家並みが数多く残り、当時の面影を伝えています。



## (8) 道路の景観

### ●都市の骨格となる道路

- ・幹線道路は、上田市の景観の骨格を形作る主要な要素となっています。市内の幹線道路は、他の都市や地域間を結ぶ道路や環状道路などからなり、沿道には商業施設や住宅地が立地しています。郊外では田園地帯や山並みへの良好な眺望が得られます。また、山間地をぬって走る道路からは間近に山並みを望むことができます。

### 【高速道路】

- ・上信越自動車道が太郎山、烏帽子岳の山麓を通過しています。車窓からは、丸子方面や上田市街地、塩田・川西方面を見渡すことができます。また、神川に架かる上田ローマン橋付近では菅平方面を見通すことができます。

### 【主要な幹線道路】

- ・国道 18 号、国道 18 号バイパス、141 号、143 号、144 号、152 号、254 号、406 号、浅間サンラインなどの主要な幹線道路が、他都市と上田市を結んでいます。
- ・国道 18 号では、下塩尻地区で千曲川の両側に切り立つ岩鼻の断崖を間近に眺めることができます。市街地では、整備されたイチョウやトチノキ、ユリノキの街路樹が植えられています。



- ・国道 18 号上田坂城バイパスでは、上田大橋から岩鼻トンネル付近にかけて、岩鼻や千曲川をはじめ周囲の眺望が開けています。
- ・国道 143 号は直線道路のため、上田市街地に向かう際には烏帽子岳を正面に望むことができます。
- ・国道 144 号では上田菅平インター付近で景観協定が結ばれたことにより、屋外広告物の乱立が防がれ良好な道路景観が保たれています。

- ・国道 152 号は丸子市街地を抜け依田川に沿って周囲の山並みを眺望できます。
- ・国道 254 号は内村川の谷沿いの田園風景と山並みを眺めることができます。
- ・上信越自動車道や都市環状道路、千曲ビューラインや主要地方道真田東部線沿道などは、屋外広告物禁止地域に指定され、良好な眺望が保たれています。



### 【上田都市環状道路】

- ・国道 18 号上田バイパス、上田坂城バイパス、143 号築地バイパス、主要地方道上田丸子線築地下之郷バイパスなど都市環状道路の沿道は、田園地帯や周囲の山並み、上田市街地への良好な眺望が得られます。



国道 18 号上田バイパス

### 【沿道美化・花作り】

- ・市内各地の道路沿いでは、地域住民や事業者による道路の美化清掃活動や花作りが行われています。また、道路の里親制度（アダプトシステム）による維持管理活動も行われています。



アダプトシステムによる道路の美化活動

## （9）鉄道の景観

### ●市を印象づける車窓からの景色、電車のある風景

- ・北陸新幹線、しなの鉄道および上田電鉄別所線の車窓からは様々な景色を楽しむことができます。
- ・北陸新幹線の車窓から眺望できる周囲の山並み、千曲川の流れ、段丘の緑地帯、上田城跡公園、繭倉、岩鼻の断崖などの一連の要素は、上田市らしさを感じさせる重要な景観資源となっています。



北陸新幹線



別所線

- ・上田電鉄別所線では、独鈷山の特徴的な山並みを背景に塩田平の田園風景が開け、また、田園の中を電車がのどかに走る風景は、どこか懐かしさを感じさせます。
- ・しなの鉄道沿線では、周囲の山並みや信濃国分寺、岩鼻の断崖などの風景が展開します。

## (10) 史跡、文化財、伝統的家並み、緑地などの景観

- ・市内各地には歴史的建築物や史跡、寺社、樹木等が数多く残されています。また、上田と丸子の市街地には、城下町や蚕都に関連した建築物が点在しています。
- ・大規模な公園は、憩いの場として豊かな緑とともにうろおいの空間を提供しています。
- ・蚕種業が特に盛んだった上田西部地域の塩尻地区では、蚕室造りの民家が数多く残り、桑畑跡などと共に、歴史と文化を伝える集落地を形成しています。



- ・神科地域の伊勢山地区では、砥石米山城の城下町の町割りの中に、蚕室造りの民家が数多く残されています。
- ・旧保福寺街道沿いの浦野宿では街道筋として賑わった当時の面影を残しています。
- ・武石地域の中心部では、トガの生け垣が民家と一体となって風格ある沿道景観を形成しています。

### 【史跡・文化財】

上田城跡公園、信濃国分寺史跡公園及び国分寺一帯、御屋敷公園、前山寺から塩田城跡・中禅寺にかけての独鈷山山麓一帯、生島足島神社 など



### 【大規模な公園】

上田城跡公園、信州国際音楽村、丸子公園、古城緑地公園、武石公園 など

### 【伝統的家並み、集落地】

旧北国街道、塩尻、伊勢山、浦野宿、藤原田、武石のトガの集落景観 など



## (11) 温泉地の景観

### ●観光地、保養地としての落ち着きとやすらぎ



- ・別所温泉や鹿教湯温泉など、多くの温泉地があり、周辺の自然環境や歴史的資源と一体となった風情ある温泉地の景観が形成されています。
- ・別所温泉は、夫神岳・女神岳山麓の豊かな緑に包まれ、安楽寺や常楽寺、北向観音、別所神社などと一体となって落ち着きのある温泉街の風情を感じさせます。



- ・鹿教湯温泉は、歴史ある保養地として、周囲の緑や、文殊堂や五台橋などの文化的資産と一体となった落ち着いた景観を見せています。



- ・内村川沿いの霊泉寺温泉や大塩温泉は、緑豊かで静かな温泉地です。

## (12) 交通拠点の景観

### ●鉄道駅やインターチェンジ周辺

・上田駅一帯は、上田地域の鉄道の玄関口であり、観光地への基点となっています。再開発事業により景観に配慮しながら一新されたお城口・温泉口は、ともに活気ある開放的な雰囲気と同時に城下町や蚕都の歴史的風格、水と緑豊かな市のイメージを肌で感じさせる場所となっています。



- ・上田駅周辺の幹線道路沿いにおいては、歩行者空間が整備され、良好な景観形成が進められています。
- ・上田駅お城口付近では地域の歴史的意匠を継承した建築物や歴史的建築物と調和するよう配慮された店舗も見られます。
- ・信濃国分寺駅は、近年整備されたこともあり、景観に配慮された駅前空間の整備が行われています。また、西上田駅、大屋駅も広場が整備されています。



・上田菅平インターチェンジ一帯は、上田市街地だけではなく菅平方面や市全体の玄関口となっています。沿道では地域の住民によって景観形成住民協定が結ばれ、道路の里親制度による活動も定期的に行われ、屋外広告物の自主的規制等により、見通しのよい美しい街路景観が維持されています。

- ・上田電鉄別所線には、別所温泉、八木沢、中塩田駅などの古い木造駅舎が残されています。



## (13) 眺望景観

### ●市内各所から見える良好な山並み・田園の自然景観

- ・千曲川などの河川の堤防や橋、幹線道路等、広く市内各所から太郎山や独鈷山等の山並みを眺望できます。
- ・一面に広がる田園と山並みの眺望は、豊かな自然環境に育まれた地域であることを実感させます。



### ●お城からの眺望

- ・上田城跡公園南櫓・西櫓から塩田平、美ヶ原高原、青木村方面を見渡す眺望は、上田城を訪れる人々にとっては城の立地の特性や歴史に思いを巡らせ、地域を印象付ける大切な景観資源となっています。また北陸新幹線の車窓からは、上田城を間近に眺めることもできます。



### ●ビューポイント（眺望点）となる山頂や峠

- ・市街地周辺の太郎山や虚空蔵山には登山コースがあり、山頂からは市街地、千曲川、独鈷山方面の山々や北アルプス、八ヶ岳、富士山などが眺望できます。



- ・塩田平の田園景観は、市坂峠、独鈷山山頂、塩田野パノラマライン、前山寺付近など周囲の山の稜線や峠、山麓など様々な場所から眺めることができます。
- ・千曲公園や信州国際音楽村、丸子城跡、武石公園などの尾根先、丘陵地、山頂からは、周囲の山並みへの良好な眺望が得られます。
- ・菅平高原のダボスの丘からは、日本百名山の四阿山、花の百名山の根子岳をはじめ、北アルプスの山々などの眺望を楽しむことができます。

## (14) 公共施設の景観

### ●上田ローマン橋や公共施設等の都市景観

- ・上信越自動車道上田ローマン橋や北陸新幹線上田ハープ橋等は、都市景観としてだけでなく、ビューポイントとしての役割も担っています。
- ・小中学校の校舎や室賀温泉ささらの湯などの温泉施設、真田氏歴史館など、周辺の環境に合わせた施設整備が行われています。
- ・今後整備が予定される公共施設においても、周辺の環境に配慮した計画が必要です。



上田ハープ橋



上田ローマン橋

## (15) 祭礼・行事の景観



上田獅子



ねじ行事とわら馬引き

### ●祭、行事等の文化的景観

- ・御柱祭、上田獅子とも呼ばれる常田獅子や房山獅子などの三頭獅子舞、祇園祭、岳の幟、戸沢のねじ行事など市内各所で行われる祭礼などの伝統行事や、上田わっしょい、丸子ドドンコ、上田城千本桜まつり、真田まつり、武石夏祭り、花火大会など、新旧の行事が数多く行われ、文化的な景観を彩っています。

## (16) 花や緑のある景観



余里のハナモモ

- ・自治会、地域の有志による花壇づくりや、花による地域づくりが盛んに行われています。
- ・上田城跡公園や依田川沿いの桜並木、豊殿地区のアヤメ、前山のガクアジサイ、信州国際音楽村のスイセンやラベンダー、御屋敷公園のツツジ、余里のハナモモなどをはじめとして、各地に花の名所が数多くあり、地域にうるおいをもたらす景観的要素となっています。

## 第3章 景観計画の区域（景観法第8条第2項第1号）

### 3-1 景観計画区域

- ・景観計画の区域は、上田市全域（552 km<sup>2</sup>）とします。

### 3-2 景観形成重点地区

#### 景観形成重点地区指定の考え方

- ・上田市の自然、歴史、文化等を背景とした特徴的な景観を有する地域や、今後積極的に景観形成を誘導する必要がある地区は「景観形成重点地区」として定めます。景観形成重点地区に定めた場合は、景観計画区域とは別に、届出対象行為の規模や景観形成基準などを設けます。
- ・景観形成重点地区は、市または市民、地域関係者の発意で検討され、景観形成の方針や基準について合意が得られた地域について、景観審議会の審議を経た上で、随時行うものとします。
- ・景観形成重点地区の候補地としては、**景観の類型・構造図**（28・29ページ）における拠点（尼ヶ淵周辺、信濃国分寺周辺、御屋敷公園、別所温泉、鹿教湯温泉、塩尻地区、伊勢山地区など）とともに、上田城跡公園周辺一帯、旧北国街道などの歴史的街道の沿道、上田駅周辺、上田地域及び丸子地域の商店街などが想定されます。

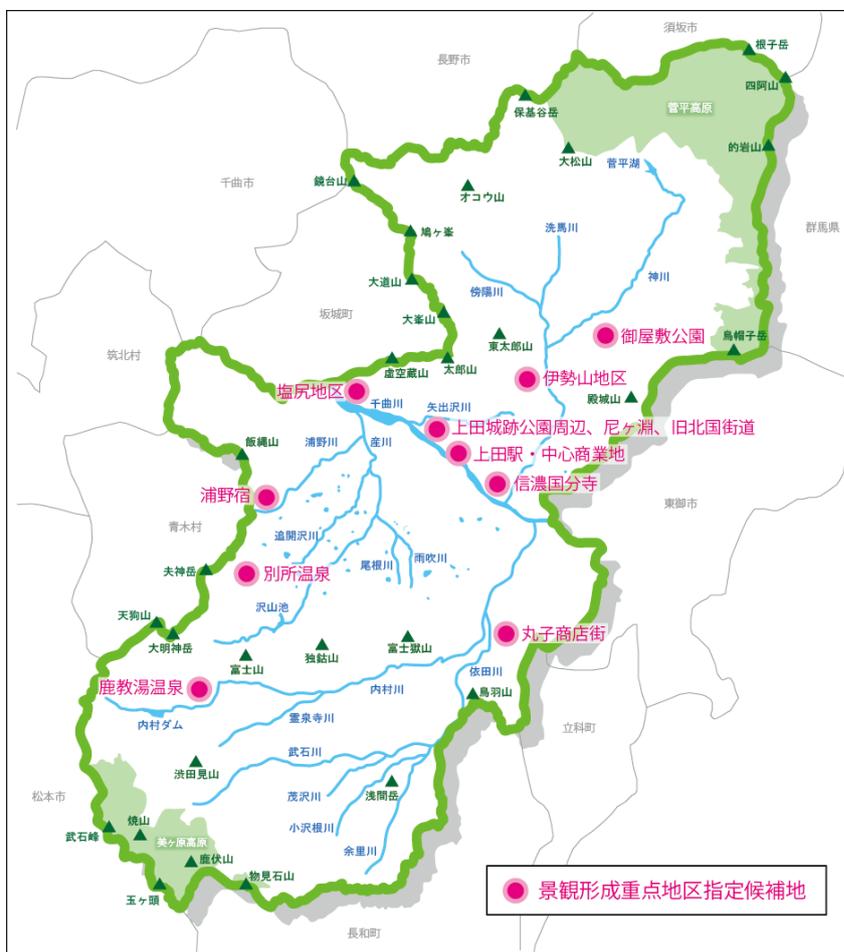


図5 上田市景観計画区域及び景観形成重点地区指定候補地図